

「万葉集を読む」3 飛鳥の万葉歌

群馬県立女子大学教授 北川 和 秀

【大和三山】

香具山は 畝傍を愛しと 耳成と 相争ひき 神代より かくにあるらし 古も しかに  
あれこそ うつせみも 妻を争ふらしき(1-13) 天智天皇

【天の香具山】

大和には 群山あれど とりよるふ 天の香具山 登り立ち 国見をすれば 国原は  
煙立ち立つ 海原は 鷗立ち立つ うまし国ぞ 蜻蛉島 大和の国は(1-2) 舒明天皇  
春過ぎて夏来るらし白栲の衣干したり天の香具山(1-28) 持統天皇  
ひさかたの天の香具山この夕霞たなびく春立つらしも(10-1812) 柿本人麻呂歌集  
忘れ草我が紐に付く香具山の古りにし里を忘れむがため(3-334) 大伴旅人

【畝傍山】

思ひあまりいたもすべなみ玉たすき畝傍の山に我れ標結ひつ(7-1335)

【耳成の池】

耳成の池し恨めし我妹子が来つつ潜かば水は涸れなむ(16-3788)

【飛鳥】

飛ぶ鳥の明日香の里を置きて去なば君があたりは見えずかもあらむ(1-78)

【飛鳥川】

明日香河川淀さらず立つ霧の思ひ過ぐべき恋にあらなく(3-325) 山部赤人  
今日もかも明日香の川の夕さらずかはづ鳴く瀬のさやけくあるらむ(3-356) 上古麻呂  
君により言の繁きを故郷の明日香の川にみそぎしに行く(4-626) 八代女王  
明日香川明日も渡らむ石橋の遠き心は思ほえぬかも(11-2701)  
明日香川瀬々の玉藻のうち靡き心は妹に寄りにけるかも(13-3267)

【真神の原】

大口の真神の原に降る雪はいたくな降りそ家もあらなく(8-1686) 舎人娘子  
大君は神にしませば赤駒の腹這ふ田居を都と成しつ(19-4260) 大伴御行

【雷岳】

大君は神にしませば天雲の雷の上に慮りせるかも(3-235) 柿本人麻呂

【飛鳥浄御原宮・大原】

わが里に大雪降り大原の古りにし里に落らまくは後(2-103) 天武天皇  
わが岡の霰に言ひて落らしめし雪の摧けし其処に散りけむ(2-104) 藤原五百重娘

【磐余の池】

百伝ふ磐余の池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ(3-416) 大津皇子  
(参考)

うつそみの人にある我れや明日よりは二上山を弟背と我が見む(2-165) 大伯皇女

【軽】

②①天飛ぶや 軽の路は 吾妹子が 里にしあれば ねもころに 見まく欲しけど 止まず行か  
ば 人目を多み 数多く行かば 人知りぬべみ 狭根葛 後も逢はむと 大船の 思ひ  
憑みて 玉かざる 磐垣淵の 隠りのみ 恋ひつつあるに 渡る日の 暮れ行くが如 照  
る月の 雲隠る如 沖つ藻の 靡きし妹は 黄葉の 過ぎて去にきと 玉梓の 使の言へ  
ば 梓弓 声に聞きて 言はむ術 為むすべ知らに 声のみを 聞きてあり得ねば わが  
恋ふる 千重の一重も 慰むる 情もありやと 吾妹子が 止まず出で見し 軽の市に  
わが立ち聞けば 玉襷 畝火の山に 鳴く鳥の 声も聞こえず 玉梓の 道行く人も 一  
人だに 似てし行かねば すべをなみ 妹が名喚びて 袖そ振りつる  
(2-207) 柿本人麻呂

②②軽の池の浦廻行き廻る鴨すらに玉藻の上にひとり寝なく(3-390) 紀皇女

【島の宮】

②③島の宮まがりの池の放ち鳥人目に恋ひて池に潜かず(2-170) 柿本人麻呂  
②④島の宮上の池なる放ち鳥荒びな行きそ君座さずとも(2-172) 草壁皇子の宮の舎人

【真弓の岡】

②5 よそに見し真弓の岡も君座せば常つ御門と待宿するかも (2-174) 草壁皇子の宮の舍人

【埴安】

②6 埴安の池の堤の隠り沼のゆくへを知らに舍人は惑ふ (2-201) 柿本人麻呂

【哭沢売神社】

②7 哭沢の神社に御酒据え祈れども我が大君は高日知らしめ (2-202) 柿本人麻呂

【藤原京】

②8 采女の袖吹きかへす明日香風都を遠みいたづらに吹く (1-51) 志貴皇子

【藤原】

②9 藤原の古りにし里の秋萩は咲きて散りにき君待ちかねて (10-2289)

【八釣】

③0 矢釣山木立も見えず降りまがふ雪に騒げる朝樂しも (3-262) 柿本人麻呂

③1 八釣川水底絶えず行く水の継ぎてぞ恋ふるこの年ごろを (12-2860) 柿本人麻呂歌集

【桧隈川】

③2 さ桧の隈桧隈川の瀬を早み君が手取らば言寄せむかも (7-1109)

【南淵山】

③3 御食向ふ南淵山の巖には降りしはだれか消え残りたる (9-1709) 柿本人麻呂歌集

【橘寺】

③4 橘の寺の長屋に我が率寝し童女放髪は髪上げつらむか (16-3822)

【竹田】

③5 うち渡す竹田の原に鳴く鶴の間なく時なし我が恋ふらくは (4-760) 大伴坂上郎女

【海柘榴市】

③6 紫は灰さすものぞ海石榴市の八十の衢に逢へる子や誰れ (12-3101)



飛鳥時代年表

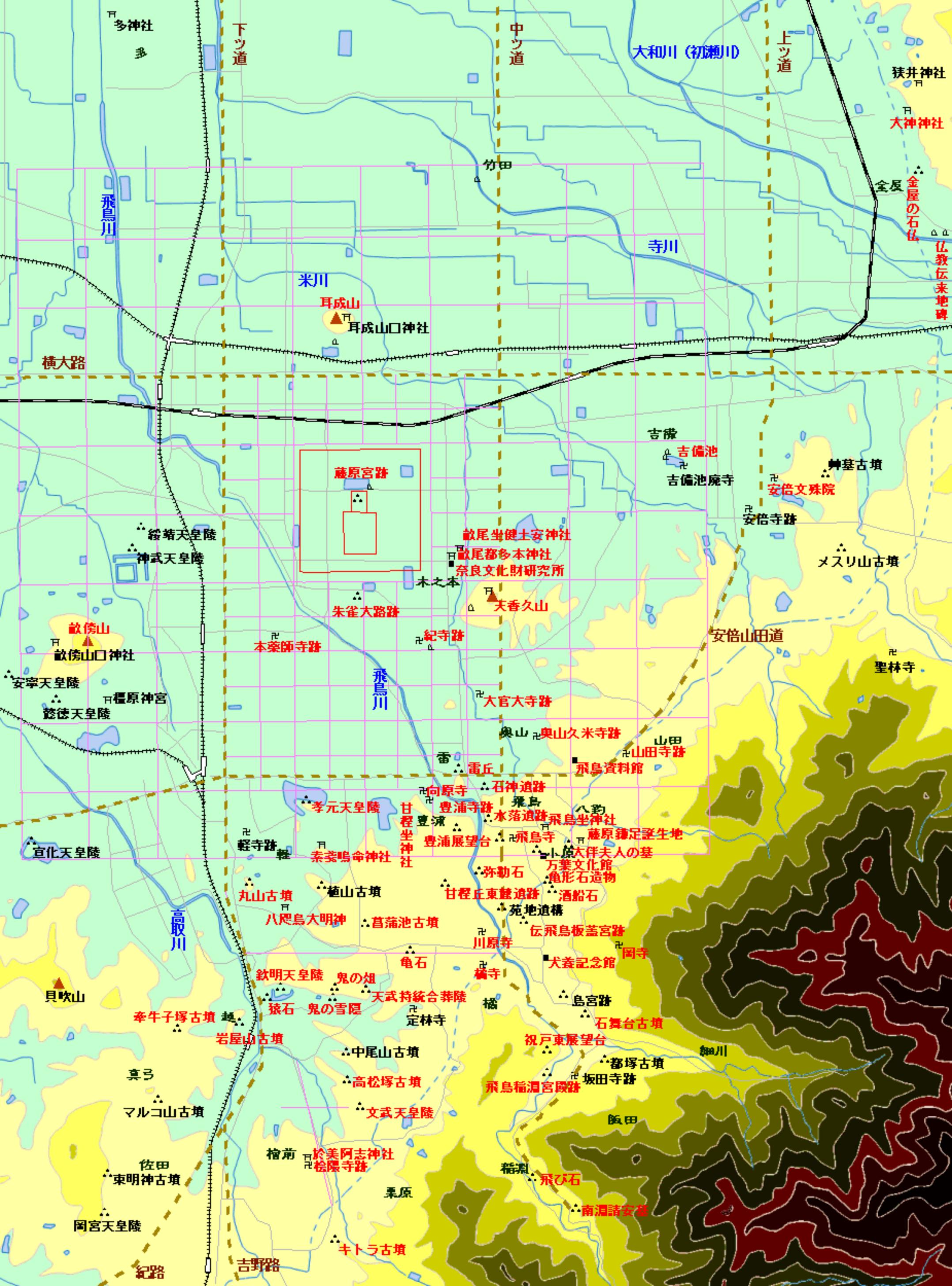
西暦	年号	干支	天皇	執政	事項
五八七	用明二年	丁未	用明	蘇我馬子	用明天皇没。蘇我馬子、物部守屋を滅ぼす
五八八	崇峻元年	戊申	崇峻	蘇我馬子	法興寺（飛鳥寺）建立開始
五八九		己酉			
五九〇		庚戌			
五九一		辛亥			
五九二		壬子			
五九三	推古元年	癸丑	推古	聖德太子	崇峻天皇没。推古天皇、飛鳥豊浦宮で即位 聖德太子、摂政となる。四天王寺建立
五九四		甲寅			
五九五		乙卯			
五九六		丙辰			
五九七		丁巳			
五九八		戊午			
五九九		己未			
六〇〇		庚申			
六〇一		辛酉			
六〇二		壬戌			
六〇三		癸亥			
六〇四		甲子			
六〇五		乙丑			
六〇六		丙寅			
六〇七		丁卯			
六〇八		戊辰			
六〇九		己巳			
六一〇		庚午			
六一一		辛未			
六一二		壬申			
六一三		癸酉			
六一四		甲戌			
六一五		乙亥			
六一六		丙子			

小墾田宮に遷る。冠位十二階制定  
 冠位十二階施行。憲法十七条制定  
 聖德太子、斑鳩宮に移る  
 鞍作鳥、丈六釈迦像を造り、法興寺に安置  
 小野妹子を隋に派遣  
 鞍作鳥、丈六釈迦像を造り、元興寺に安置

西暦	年号	干支	天皇	執政	事項
六一七		丁丑			隋滅亡、唐興る
六一八		戊寅			
六一九		己卯			
六二〇		庚辰			
六二一		辛巳			
六二二		壬午			
六二三		癸未			
六二四		甲申			
六二五		乙酉			
六二六		丙戌			
六二七		丁亥			
六二八		戊子			
六二九		己丑			
六三〇		庚寅			
六三一		辛卯			
六三二		壬辰			
六三三		癸巳			
六三四		甲午			
六三五		乙未			
六三六		丙申			
六三七		丁酉			
六三八		戊戌			
六三九		己亥			
六四〇		庚子			
六四一		辛丑			
六四二		壬寅			
六四三		癸卯			
六四四		甲辰			
六四五		乙巳			
六四六		丙午			
六四七		丁未			
六四八		戊申			
六四九		己酉			
六五〇		庚戌			
六五一		辛亥			
六五二		壬子			

皇極  
 蘇我入鹿  
 中大兄皇子  
 孝徳  
 蘇我蝦夷  
 推古天皇没  
 蘇我馬子没  
 聖德太子没  
 飛鳥岡本宮に遷る  
 飛鳥板蓋宮に遷る。山背大兄王自殺  
 蝦夷・入鹿、邸宅を甘樫丘に建てる  
 大化改新。難波長柄豊碕宮に遷る  
 南淵請安・高向玄理、唐から帰国  
 山田寺、造営開始。舒明天皇没  
 小墾田宮に遷る  
 蘇我石川麻呂、山田寺で自殺





多神社  
多

下ツ道

中ツ道

上ツ道

大和川 (初瀬川)

狹井神社  
大神神社

飛鳥川

米川

寺川

金屋の石仏  
仏教伝来地碑

耳成山  
耳成山口神社

横大路

吉備池  
吉備池廃寺

神墓古墳  
安倍文殊院

藤原宮跡

畝尾当健土安神社  
畝尾都多本神社  
奈良文化財研究所

安倍寺跡

メスリ山古墳

綏靖天皇陵  
神武天皇陵

朱雀大路跡

天香久山

安倍山田道

聖林寺

畝傍山  
畝傍山口神社

本薬師寺跡

紀寺跡

安寧天皇陵  
履原神宮  
懿徳天皇陵

大官大寺跡

奥山  
奥山久米寺跡

山田  
山田寺跡

飛鳥川

雷丘

飛鳥資料館

宣化天皇陵

孝元天皇陵

向原寺  
豊浦寺跡

石神遺跡  
飛鳥  
水落遺跡

飛鳥坐神社  
藤原鎌足誕生地

輕寺跡

素戔鳴命神社

甘程坐神社  
豊浦展望台

飛鳥寺  
小原大伴夫人の墓

万葉文化館  
魚形石造物

丸山古墳  
八咫鳥大明神

植山古墳

甘程丘東麓遺跡

酒船石

苑地遺構

貝吹山

菖蒲池古墳

川原寺

伝飛鳥板蓋宮跡

岡寺

欽明天皇陵

鬼の畑  
天武持統合葬陵

龜石

橋寺

犬養記念館

牽牛子塚古墳

猿石  
鬼の雪隠

定林寺

橋

島宮跡

石舞台古墳

真弓

岩屋山古墳

中尾山古墳

高松塚古墳

祝戸東展望台

都塚古墳

マルコ山古墳

文武天皇陵

於美阿志神社  
檢隈寺跡

栗原

飛鳥稲渥宮殿跡

坂田寺跡

佐田  
東明神古墳

檜前

キトラ古墳

稲渥

飛び石

南淵諸安墓

岡宮天皇陵

吉野路

紀路

飯田

細川

阪田